

第13次
ボランティア

東日本大震災 救援募金 のお願い

日本共産党

石巻市へ

ボランティア募集、支援物資も

日程

2月 8日 (金) 夜 発

2月 11日 (祝) 夜 着

救援募金 **407万円** ご協力に感謝します

震災から2度目の冬を迎えています。仮設住宅はとにかく冷え込みます。心も体もあたたまるトン汁の炊き出しをします。

また、物資のお届け、要望聞き取りなどの活動です。

この間12次にわたり95名が石巻市を中心にボランティアに参加しました。

支援物資の提供は300人を超える方から寄せられました。

支援物資はすべて現地にお届けしました。募金は、お米や野菜、炊き出しの材料、業務用ガス炊飯器、物資輸送のレンタカーや宅配便などで活用しています。引き続き、米、野菜を中心に仮設住宅へお届けします。

今回お願いしたい救援物資

お米、おもちゃ、ぬいぐるみ、下着・靴下、貼るカイロ、洗剤、石けん、湯たんぽなど

募金、物資提供など、ご連絡
いただければお伺いします。
整理の都合上2月4日まで受け付けます



心と体があたたまる
トン汁



米の
小分け作業



好評のバザー

港地区委員会 TEL 3455-0051

FAX 3455-0054

メール jcp_minato@ybb.ne.jp

港区議団 TEL 3578-2945

FAX 3578-2947

メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp

みなと民報

2013年 新春 号外

日本共産党港地区委員会は東日本大震災へのボランティア参加を呼びかけると発表しました。発行 みなと民報社/海岸2-4-12/責任者/栗橋伸次郎

日本共産党 第12次ボランティア活動報告 石巻

11月23日～25日

2012年

日本共産党港地区委員会は、11月23日から25日まで石巻市の「日本共産党 震災・救援センター」を拠点に、10名がボランティア活動を行いました。



大きなサケ



地盤沈下した岩手県内の浜



ナベを囲んで交流、宿舎

今回は20代30代の青年を中心に10名の参加です。

岩手の被災実態を見る

23日の早朝に岩手県へ行き、大船渡、陸前高田など岩手の被災実態を目に焼き付けました。

途中、浜により漁師さんの話を聞きました。船着き場は1メートル近く地盤沈下しています。この時は、サケの漁をしていました。大きいサケです。

岩手から宮城へ、気仙沼の港地域に入りました。まだ解体できずに残った建物やビルの基礎だけが残っているなど、被害の大きさにびっくりです。

この後、南三陸、女川、大川小学校を視察して、石巻の救援センターへ入りました。

トン汁 炊き出しの準備

午後、翌日24日のトン汁の炊き出し下準備です。



気仙沼の港。被害は甚大



野菜きり 下準備



順番に盛りつけます



ホッとするとほっとき



自転車ゲット

下煮込みしてきます。準備作業を終えて、器材と材料を軽トラックに積み込んで作業終了です。宿に行く前に「ふたこの湯」で疲れを癒します。宿では、ナベです。寒いので、ナベが最高です。簡単に栄養も取れます。沖縄の「さんしん」で楽しく交流しました。

バザーも炊き出しも好評

バザーも大好評。トン汁であたたまってもらいます。ホッとしますね。みんなニコリです。家族で夜いただきますと、小さなベ持参の方に、「うどんを入れると美味しいよ」と声をかけます。「是非やりませう」との返事

です。自転車の抽選会は、一人だけだったので、この子がゲット。まだ小さいので、自転車に乗るのは、半年後かな・・・。

米の小分け作業、袋詰め

東松島での活動を終えてセンターに戻った後、米の小分け作業と、日用品などをセットにする作業を行いました。流れ作業で次々と進めます。

まず、米を2キロ弱の小分け袋に入れます。Tペーパー、野菜セツト、洗剤を大きめの袋に入れます。これが各世帯に届ける物資です。275袋つくりました。

自分もやれることがある

ボランティア参加者からは、「泥だしなどで何度か被災地に来たが、仮設住宅を訪問して要望を聞いたのははじめて。直接被災者の声を聞くことが出来てとても良かった」、「いつかボランティアに参加したいと思っていたが、やっと実現できた。自分にもやれることがあると感じられた」、「今後もボランティアを続けたい」等々の感想が出されました。

今後、息の長い支援が必要です。復興への一つの目安は、仮設住宅が役割を終了して、本格的な住まいを全員が確保することだと思えます。そして仕事確保です。心の問題はさらに時間が必要です。